

平成29年度



白川小だより

第4号 平成29年6月30日(金)

関わりながら 伸びる

学校長 井戸 さえ子

先日、校内授業研究会を行い、5年生の国語の授業を参観しました。本校では学習の学び方を、自分で実際に見ることで学んでほしいと願い、下の学年の子らも10分ほどですが、参観に加わります。どの子も真剣に見入っていたその感想文には、「グループで話し合っているとき『ここ分かる?』『ここまでは分かるの?』と友達にたずねていたから、すごい。」「教科書の文が長いのに、みんなすらすら読めていたし、自主勉強ノートに予習をしてきてあるのに驚いた。」とありました。研究授業に自然に溶け込み、上級生の共に学び合おうとする姿や主体的に学ぶ姿のよさに気づけていることに、参観の意味を確かなものと感じました。

今年度、学年毎の児童数はほとんどが10名以下となり、「集団」を実感することが難しくなってきた中で、「わくわく遊び」の時間は、運動場に大きな歓声が湧いています。「わくわく遊び」は全校を縦割りにした異学年のグループが一緒になりチームで遊びます。



子どもたちにとっては唯一「集団」で遊ぶ楽しみを味わえる場でもあり、今年度その時間を増やしました。遊びの中で関わり合えることは、自然なコミュニケーションを通して、より親しい関係づくりを築くことができ、屈託なく交わり合える関係の中で互いのよさを自然と吸収し合えることも期待しています。屈託のない関係は参観授業の姿にもつながります。

校内授業研究会では、講師として東京から稲井達也先生（日本女子体育大学教授 国語教育専門）をお迎えしました。先生からは「子どもたちがフレンドリーですね。何よりしっかり相手の話を聞こうとしている。授業でも『聞き合える』関係づくりが本当によくできている。」と話されました。子ども達は、学習にしても生活にしても互いに安心して関わり合えてこそ伸びます。先生のこの評価は、全校の1学期の取組の賜だと思っています。